所報　平成3年9月15日創刊　平成30年9月15日発行・毎月1回15日発行・No. 310
一般社団法人 協同総合研究所 ISSN 1344-7300

協同の發見

きょうどうのはっけん

第310号
2018.9

特集 「ワーカーズコープ論」寄附講座運動②
－学生と社会をつなぐ戦略を焦点に－

◎ 相良 孝雄　「ワーカーズコープ」の寄附講座の目的と戦略
資料　○ワーカーズコープが関わる寄附講座一覧/○講義内でのワーカーズコープ論　実績
○福島大学一般公開授業ワーカーズコープ論「協同で起こす仕事と地域づくり」チラシ
○各大学カリキュラム(案)沖縄キリスト教学院大学/福島大学/和歌山大学/桃山学院大学
◎ 高橋 弘幸　久留米大学「協同組合概論」2年目の深化
◎ 伊丹 謙太郎　協同労働を学び実践する場を創る－千葉大学労協講座の初年度と目指すもの
◎ 島袋 隆志　沖縄大学「ワーカーズ・コープ論」寄附講座
4年目の試み－「模擬・団会議」を体験して－
◎ 村上 了太　沖縄国際大学キャリア教育科目群の開設と今後の展開
－夏期集中型寄附講座講座「ワーカーズコープ論」実施機関との連帯を踏まえて－
◎ 相良 孝雄　お金のためだけの「働くこと」観から、多様な「働くこと」観への変容
－3年目の2018年沖縄国際大学「ワーカーズコープ論」寄附講座から－

■会員だより
北出 順子　なりたいものになる。やりたい仕事に就く
－本学学生が福井県内第1号の訪問看護師になった事例から－

■ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(Vol.20)
百瀬 まゆみ　私が歩んだ労働者協同組合

■巻頭言
藤田 徹　大学寄附講座「ワーカーズコープ論」の広がりと「学生ワーカーズ」の可能性

一般社団法人 協同総合研究所
JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字／藤原 桂州

協同の發見

第310号 2018.9

特集　「ワーカーズコープ論」寄附講座運動②
－学生と社会をつなぐ戦略を焦点に－

目 次

巻頭言

大学寄附講座「ワーカーズコープ論」の広がりと「学生ワーカーズ」の可能性 …… 2
藤田 徹（日本労協連副理事長/日本社会連帯機構専務理事）

特集　「ワーカーズコープ論」寄附講座運動②－学生と社会をつなぐ戦略を焦点に－

- 「ワーカーズコープ」の寄附講座の目的と戦略 …… 6
  相良 孝雄（協同総合研究所　事務局長）
  資料①　◎ワーカーズコープが関わる寄附講座一覧（15回で２コマの単位認定）
  ◎講義内でのワーカーズコープ論　実績
  資料②　◎福島大学　一般公開授業　ワーカーズコープ論チラシ
  資料③　◎各大学でのカリキュラム（案）
  ▽沖縄キリスト教学院大学　▽福島大学　▽和歌山大学　▽桃山学院大学
- 久留米大学「協同組合概論」２年目の深化 …… 16
  高橋 弘幸（センター事業団　九州沖縄事業本部　事務局長/会員）
- 協同労働を学び実践する場を創る－千葉大学労協講座の初年度と目指すもの－ …… 39
  伊丹 謙太郎（千葉大学　人文公共学府　特任助教）
- 沖縄大学「ワーカーズ・コープ論」寄附講座
  ４年目の試み－「模擬・団会議」を体験して－ …… 53
  島袋 隆志（沖縄大学法経学部　准教授）
- 沖縄国際大学キャリア教育科目群の開設と今後の展開
  －夏期集中型寄附講座講座「ワーカーズコープ論」実施機関との連帯を踏まえて－ …… 61
  村上 了太（沖縄国際大学　教授/総研理事）
- お金のためだけの「働くこと」観から、多様な「働くこと」観への変容
  －3年目の2018年沖縄国際大学「ワーカーズコープ論」寄附講座から－ …… 70
  相良 孝雄（協同総合研究所　事務局長）

会員だより

なりたいものになる。やりたい仕事に就く。－本学学生が福井県内第１号の訪問看護師になった事例から－ …… 104
北出 順子（福井大学医学部講師/会員）

ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介（Vol.20）

私が歩んだ労働者協同組合 …… 108
百瀬 まゆみ（センター事業団　東京三多摩山梨事業本部　西多摩エリアマネージャー兼FUSSA地域福祉事業所　所長）

労協連だより　髙成田 健 …… 113
研究所だより　利根川 徳 …… 114

巻頭言

大学寄附講座「ワーカーズコープ論」の広がりと学生ワーカーズの可能性

藤田 徹（日本労協連副理事長/日本社会連帯機構専務理事）

ー寄附講座の始まりと現在ー

ワーカーズコープの大学寄附講座の始まりは、2013年に開催された第34回労働者協同組合連合会総会に向けた「学校・会館建設検討委員会」の答申に遡る。（答申作成の座長を藤田が務めていた。）

答申の中では①フリースクールなど若者の学び直しの学校　②働きつつ学べるワーカーズコープカレッジの設立　③協同労働の理念を柱とした保育士や介護福祉士の養成校の設立などの構想に合わせ　④大学との提携に向けた「寄附講座」の開催が提案された。

この提案の背景には、当時の答申メンバーであり現労協連副理事長の山本幸司氏から、労働組合のナショナルセンターである連合が法政大学と組んで、「寄附講座」を実施し、連合大学院を開設するという話を聴いたところからスタートする。「寄附講座って何!?」「それはワーカーズコープでも実施できるのか」といった議論に発展し、すぐにでも始められる取り組みの１つとして方針に入ったという経緯がある。

答申後すぐに当時の協同総研専務理事であった上平泰博氏と相談し、ワーカーズコープ運動のもっとも良き理解者の一人であり、地域とともに育つ大学づくりの先頭に立っておられた加藤彰彦沖縄大学学長（当時）に打診してみることになった。先生に相談するとすぐに趣旨を理解してくださり、全国初の寄附講座が一挙に前に進み始めた。運良く沖縄大学には25年前以上前から労働者協同組合運動に関心を寄せ、管野正純元労協連理事長（故人）とも親交があった小林甫先生がおられ、講座の担当教員を快く引き受けてくださった。まさに人のつながりが寄附講座の開催を後押ししてくれたわけである。

その後、担当教員は島袋隆志先生（沖縄大学法経学部准教授）に引き継がれ、今年度（2018年度）で４回目の寄附講座が開催されるまでになった。ちなみに島袋先生は日本社会連帯機構や沖縄県高齢者生活協同組合の理事でもあり、日本社会連帯機構沖縄県本部の共同代表も務めていただいている。

沖縄大学から始まった寄附講座は、その後沖縄国際大学、久留米大学、沖縄キリスト教学院大学、千葉大学、福島大学、和歌山大学、桃山学院大学、琉球大学の９大学に広がり、来年度か

ら埼玉大学や新潟大学でも検討が始まり、その可能性が日々広がりつつある。

ーワーカーズコープの寄附講座が広がる背景は何かー

３年目を迎える沖縄国際大学の夏期集中講座に今年も参加させていただいた。担当の村上了太先生は前日までドイツを訪問されていたそうで相変わらずのタフさに驚いた。村上先生や島袋先生の寄附講座やワーカーズコープに対する熱い想いや丁寧なフォローがあってこそ寄附講座は成り立っている。

沖縄国際大学の講座は、村上先生の講座の目的や受講の構え、そして先生の専門の１つである「沖縄共同売店」の話などを交えてスタートした。詳しい内容は相良孝雄協同総研事務局長の論稿に譲るが改めて「ワーカーズコープ論」という講座の意味と可能性を実感した５日間になった。

◆「単位を取るための目的でしたが、沖縄の様々な課題（高齢者・子供・若者他）のために利潤目的とは違った動機で働く人々をみて、もっと早くワーカーズコープについて学べば就職活動も少し変わっていたと思った。」（経済学部４年）

◆「第１回から15回の講義を通して、働く意味の考え方が変わった。前まではお金のため・生計のために働くと考えていた。しかしそれだけではなく、自分の成長のために働くという考えが出た。あと地域についてもっと関心を持とうと思った。今回ワーカーズコープ論をとって、こんな学び考えるとは思わなかった。後期から就職活動が始まるので学んだことを活かしていこうと思う。」（法学部３年）

◆「自分の地元の魅力、問題を調べて真剣に考える機会は今回初めてだった。魅力を知って更に好きになれたり、浦添市の問題を少しでも解決したい。自分でも働きたいという気持ちがわいた。発表した後のコメントや質問で、さらに深く考えさせられた。」（総合文化学部２年）

◆「今までは働くとは大きな会社があり、その下で雇われて働くものだという固定観念があることに気づきました。問いを立てることの大切さを学ばせてもらいました。」（総合文化学部２年）

◆「当事者意識の大切さを感じました。皆が見て見ぬふり、誰かがやってくれると人任せにしていると社会は変わらないんだなと思いました」（経済学部３年）

◆「各自治体の問題が全くかぶらなかったことに驚きました。また課題の解決に関しても様々な取り組み方があってとても興味深く感じました。」（法学部１年）

これはワーカーズコープ論を受講し

た一部の学生の感想だが、多くの学生が受講前と受講後の「労働観」「就職観」の変化や、「地域」への関心や見方の変化を語っている。またある学生は「「働き方」「就職観」などという固い話は学生同士ですることはほとんどしない。しかし本当は悩んだり、迷ったりしているテーマでもあり、他学部の学生や講師の意見を聞けるこういう場はありがたかった」とつぶやいていた。

大学の就職予備校化や日本経済の発展に寄与することを目的とした大学改革の是非が論じられているが、今講座を通じて見えてきたことは、もっとも肝心な主人公である当の学生自身は「働くことや生きることの意味」についてもっと考えたり、他の人の意見を聞きたがっている姿であった。また「働くこと」と「地域で暮らすこと」が分断されている学生の姿も鮮明になった。「働くこと＝稼ぐこと」稼いだお金で自分の好きな趣味や物を購入するという発想の学生の多さを改めて実感した。（今の社会状況からするとしごく当たり前なのかもしれないが…）

講座の中の講師の実践や生き方、また学生同士のディスカッションを通じてそれらの考えが揺らいでくるのだが、「働くこと」と「地域」や「暮らし」の分断は沖縄でもかなり深刻化しているのではないだろうか。

長々と述べてしまったが、最も伝えたいことは、このワーカーズコープ論は、何よりもこれからの社会や地域に巣立っていく学生の力になりうるし、協同労働の法制化時代に、ますます求められるカリキュラムになるのではないかという確信めいたものだった。

これからの新しい「キャリア教育」や「地域の活性化と大学」という最新のテーマにも一石を投じるのではないだろうか。ぜひ、協同総研の会員の方々にも改めて御一考願いたい。

ー「学生ワーカーズ」設立の可能性を考えるー

当初は妄想的に考えていた「学生ワーカーズコープ」という構想だったが、法制化の状況も追い風にし、より具体的につまりモデルをつくる段階に入ったことを感じている。

沖縄国際大学の寄附講義の人気No.1は「がちゆん」という琉球大学の学生がつくった修学旅行生の受け入れをコーディネートしている会社の事例だった。（がちゆんはその後、順調に業績を伸ばし、修学旅行生だけではなく、LGBTや様々な社会問題について、中高生はじめ若者と考えあうカリキュラムを開発しているという）ちなみに「がちゆん」は「がちでゆんたく」するという意味の略称であり、沖縄国際大学の学生も複数参加しているという。

同じ学生が協同で仕事をおこし、学生の問題意識がきっかけとなり、会社組織に発展し、しかもそれで生計を立

てているという身近な事例は、受講していた学生にとっても毎年大きな刺激になっている。

東京の一橋大学の学生サークルが、衰退しつつあった地域の商店街とコラボレーションして次々と仕事をおこし、商店街とまちを蘇らせている事例など多くはないが、学生が主体となり、収入を得ながら地域課題を解決していっている取り組みが出始めている。その事例を目を輝かせながら聞いている学生の姿を見るにつけ、「学生ワーカーズ」構想は決して非現実的ではないという想いを強くしている。全国のワーカーズコープではすでに若者の就労支援を核とする「若者サポートステーション」の運営（全国22カ所）や、生活保護、困窮世帯の子どもを対象とした学習支援（40か所）、子ども食堂の取り組み（62ヵ所）、学童保育（186ヵ所）・児童館（70ヵ所）などのアルバイトなどを含め、すでに数千人の学生が関わっている。そうした若者に向け学生ワーカーズをつくろうと呼びかけることはすぐにでもできることなのではないだろうか。また寄附講座を受講し、現地のワーカーズコープでのアルバイト、ボランティアや就職を希望する若者がいるように、講座の受講生に呼びかけ、先生や大学のご理解をいただきながら、「学生ワーカーズコープ設立準備会」や「ワーカーズコープ研究会」などを大学につくっていくことはできないものだろうかと考えている。

いくつかのモデルができていくと、法制化の動きと重なり一挙に全国の大学に広まる可能性があるのではないかとそれこそ妄想を膨らませている。

ぜひその夢が、正夢になるよう全国の仲間の知恵と力を結集していただきたい。最後になるが、そういったことを広げる意味でも、今回完成した映画「Workers　被災地に起つ」（10月20日から東京のポレポレ東中野でロードショー）の全国上映、大学上映を広げていっていただけることを改めてお願いし、巻頭言としたい。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合（ワーカーズコープ）への注目が増しています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。

研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の發見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。

●今月の表紙

2018年８月20日～24日の５日間で、沖縄国際大学で３回目の「ワーカーズコープ論」の寄附講座終了後の集合写真。年々参加する学生が増えています。今年、沖縄の旧盆が23日から始まるなかで、学生はほぼ休むことなく、暑い・熱い気候と雰囲気のなかで開催しました。

所報　協同の発見　９月号（通巻 310号）

2018年9月15日（毎月1回15日発行）
編集・発行／一般社団法人 協同総合研究所
代表／島村 博
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7F
Tel 03（6907）8033　Fax 03（6907）8034
Email　kyodoken@jicr.org　　URL　http://jicr.org/
郵便振替口座　00140-7-552949

定価 1,300円（本体 1,204円）